ＪＲ総連通信

２０２１年3月8日　№１４２６

全日本鉄道労働組合総連合会（ＪＲ総連）　http://www.jr-souren.com

「絆・思いやり・助け合い」を再確認！

東日本大震災から 10 年

現地踏査・意見交換をおこなう!!

JR 総連は３月５～７日にかけて、東日本大震災から 10 年を迎える被災地を訪れ、JR 東労組仙台地本と盛岡地本の組合員と現地踏査し、意見交換をおこないました。

・現地踏査

ＪＲ仙石線 野蒜駅

震災時の野蒜駅は「震災復興伝承館」の一部として震災遺構として保存している。

新設された野蒜駅舎(海抜 22m)。

新しい野蒜駅は旧野蒜駅から 500m離れた高台に移設されている。

三陸鉄道 陸中山田駅（震災当時はＪＲ山田線）

震災直後の陸中山田駅。津波の堆積物が燃え、焼け焦げた跡が残っている。

今現在の陸中山田駅。鉄路での復活を果たした。

陸中山田駅で働く女性は「震災当時の映像を見ると今でも涙が出る」と語ってくれました。

現地踏査で津波被害の甚大さを実感する！

・意見交換

東松島市社会福祉協議会　「地域共生社会」にむけた支援体制の構築へ！

ＪＲ東労組仙台地本の仲間のみなさんと東松島市を訪れ、当時ボランティア活動の拠点となっていた社会福祉協議会の阿部栄一常務理事をはじめとするみなさまと、意見を交わしてきました。

社会福祉事業協会の千葉孝弘事務局次長からは、当時ＪＲ東労組の役員が災害ボランティアセンターサテライト運営の主軸を担ったことや、仮設住宅に暮らす住民へお花を届ける「春のプレゼント」等の活動に対して感謝の言葉が述べられました。また、東松島市の被災者支援として住民同士が支え合う「地域共生社会」の構築にむけた支援体制の取り組みについて語られました。

ご挨拶される社会福祉協議会の阿部常務理事

ＪＲ東労組仙台地本　「仲間のために・・絆を実感。労働組合があったからこそ」

ＪＲ東労組仙台地本のみなさんとの意見交換では、「自分たちも被災していたが、安否確認をはじめ、支援活動をすぐにおこなえたのは、困っている組合員がおり、助け合わなくてはならないとの一心で、それが支援活動に奔走できた原動力となった」「原発事故で避難生活を転々とすることを余儀なくされたが、その都度、ＪＲ東労組の仲間が激励してくれた。全国に組織があることの有難み・絆を実感した」労働組合の大切さを身をもって実感したと語られました。

ＪＲ東労組盛岡地本釜石支部　「仲間が自転車で探しに来てくれた。鉄路の復活嬉しい」

ＪＲ東労組盛岡地本釜石支部のみなさんとは、震災当時の状況と、被災した山田線が三陸鉄道として鉄路による復活を果たした映像を振り返り、「ＪＲ北海道労組が４ｔトラック２台で支援物資を届けてくれたこと」「仲間が自転車で避難所一つひとつを回り、自分を探しに来てくれたことは忘れない」「ボランティア活動の原動力となったのは、こうした仲間の支えがあったからであり、自然と力が湧き、復興にむけて頑張ることができた」「被災した宮古～釜石間はＪＲでの復旧ではなかったが、署名活動などが実を結び、地域のみなさんと連帯して鉄路で復活できたことは財産である」など、当時の思いが語られました。

※意見交換の内容につきましては、別途冊子に編集し発行します。

意見交換で出された安全や利便性に係わる課題、復興にむけて取り組んでいる様々な課題については、ＪＲ総連推薦議員懇談会と連携して、課題解決にむけて取り組んでいきます！